

地政学から見る世界秩序—ロシア—

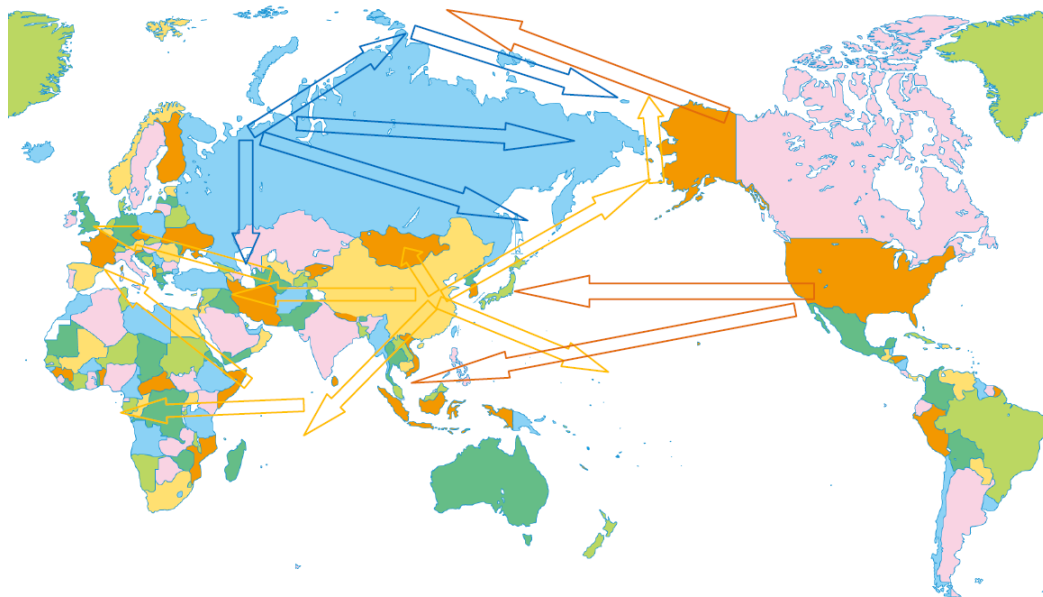
講師 IGIJ 理事 林吉永

「戦争の世紀」における覇権獲得の理論「地政学」は、東西対峙の冷戦世界を造り出し終焉しました。しかし東側世界の崩壊と再興の間を縫って、ウクライナ、クリミアにおいてロシア植民政策の成果が顕現しています。アメリカ合衆国の西進戦略は、ユーラシアクレセントにおける制限戦争の失敗からの再生を模索しています。冷戦時代、米ソ2極の間で漁夫の利を得た中国は、経済・軍事大国化を果たし「一带一路」戦略の実働に陸・海両棲大国として始動しています。これら地政学、すなわちジオポリティック現象の主アクターである、プーチン露大統領、習中国主席、トランプ米大統領の目指す「世界」のイメージを探ります。(講師・記)

—トピックス—

- ・ 日露2プラス2の意味
中国砕氷船「雪龍」の北極海航行アイスランド訪問航海 (2012年8月)
日露2プラス2 (2013年11月)
日露2プラス2再開 (2018年11月)
- ・ 露土戦争14度目の正直
クリミア戦争 (1853年)
クリミア併合/ウクライナコントロール
*ウクライナとロシアの歴史的確執
*3国干渉/日露戦争—南下政策・東方政策・征西・西進戦略・・・
- ・ 「一带一路」との連携と警戒

「米・中・露の競合(共通)する一国(帝国)主義」



- ・ ロシアのDNA
- ・ プーチンとドゥーギンの地政学